

校長室だより～和光高校今昔 第3号 H26.5.28

埼玉県立和光高等学校 校長 村田 進

## がんばれバレーボール部

かつて和光高校の体育館では、バスケットボール、バレーボール、バドミントン、器械体操、卓球、剣道の各部が競い合うように大きな声をだしながら動き回り、熱気と活気に満ち溢れていた。他のクラブと較べ残念ながら県レベルの賞状を一枚も得られなかったバレー部だが、その中身は他部に負けにくいぐらい光り輝いている。

開校2年目に赴任された久保田敢司先生（元豊岡高校長）によって、男女バレー部の礎は築かれた。体育館完成前の外コート時代から厳しい練習に明け暮れ、男女とも西部地区の強豪校として県大会には常時出場し一時代を築いたのである。3期生の杵淵久三子は実業団リーグのチームで活躍し、後進の指導に尽力した星野義和（4期）、鈴木喜久次（5期）など好選手を輩出した。特に昭和53～55年度の7期生の女子・住谷恵主将の代は強かった。ライバルは川越商業（現在の市立川越）、後のオリンピック代表小高選手を擁する大型チームだ。西部地区1年生大会決勝で和光高校は柴崎浩子を中心とする堅いレシーブから、武田まゆみの好トスを南部容子・本間美香・葛山恵の3枚エースが強打を叩き込む。アタッカーもレシーブ力も遜色なく内容は拮抗するもののブロックの差は大きい。惜しくも敗れ牙城は崩せなかった。



最大の目標の関東大会県予選では、頼みの南部が試合前日の怪我でベストの状態では挑めず敗退。もう少しで目標の関東出場に手が届くところまで迫ったチームも最高ベスト16まで。結果的にこれが歴代最高の成績となった。この間今を時めく細田学園と何度も合同遠征。久保田先生は当時の細田・富樫先生（現小松原女子校長）に練習法を伝え、夜は深夜までバレー談議に花を咲かせていたことが思い出される。

その後は厳しい練習が敬遠され部員不足に悩む時代が続き県大会出場までが目標となってきた。その冬の時代をくぐり抜けた中で、和光バレーの魂は時を超え、12期主将の福川由紀は栃木県ママさんバレー優勝チーム、同期の宮本まさみは東京都家庭婦人ナンバー1チームでそれぞれキャプテンをつとめ全国や関東大会に出場している。

平成に入り顧問は、中里（現越谷北）、栗島（現川越女子）、池之谷（現任校）各先生とバレーボール専門委員の錚々たる顔ぶれが連なる。現在は名門所沢高校バレー部OBの文箭哲章先生を中心に指導に当たっているがこの系譜を受け継ぎ頑張ってもらいたい。大勢の卒業生が復活を楽しみに待ち望んでいる。